

令和6年度 第2回教育課程編成委員会資料

資料第1号

学校名:大阪府柔道整復師会医療スポーツ専門学校

企業委員様からの提案・ご意見まとめ

① 教育の具体的な目標 :「思考・判断・表現が発揮される主体的・協働的な問題発見・解決の経験」

- 1.アクティブ・ラーニングを1年生の早期から取り入れ思考力・判断力・表現力を育成。
- 2.臨地実習を通し課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びから論理的に考える思考を育成。
- 3.レポートや実習簿記載で自己評価や考察を行い解決方法を見通せる立案力と問題発見能力育成。
- 4.グループ研究過程を通じて必要に応じ他学年の学生や同級生と協調作業ができる能力育成。
- 5.研究過程を通じて計画を立て予定にあわせタスクを進められるスケジュール管理能力育成。
- 6.プレゼンテーション能力と仮説が正しいかどうか判断する仮説検定能力と臨床推論力の育成。

② 令和6年度教育で取り組んだ内容

【医療分野】

- ・早期臨床実習体験(Early Exposure)[1年]・スポーツ救護実習[1.2.3.4年]
- ・介護現場(機能訓練指導)実習[2年]2月実施予定
- ・附属接骨院臨床実習[3年]
- ・総合病院 病院見学実習[4年]2月実施予定

【育成分野】

- ・グループワーク[1.2.3.4年]・グループ研究[3年]
- ・臨床心理学[2年]
- ・大阪府地域保険課精神グループ「こころのホットライン」及び「ヤングケアラー支援」
- ・身近な卒業生から話を聞こう[2年]
- ・税理士の先生から学ぶ租税講習
- ・大阪府労働センターから学ぶビジネスマナー講習(就活セミナー)[2年]
- ・弁護士の先生から学ぶ労働関係法規(就活セミナー)[4年]

【職業倫理分野】

- ・柔道整復師の職業倫理[1.4年]
- ・大阪学術大会[1.2.3.4年]
- ・正しい保険の取扱い方[3年]
- ・業界説明会[4年]2月開催予定

【学位請求 卒業論文制作】

- ・高度専門士の称号付与(大学院進学資格のため学位請求論文の位置づけ)
- ・リサーチマインドを育む教育及び既存の知識に基づいて論理的推論が行えることを証明する

③ 現在の問題・課題など

(学生側の問題点)

- 1.基礎学力が身に付いていない。
 - ①国語力がなく本を読んでも理解できない。
 - ②中学生レベルの基礎が出来ていない。
 - ③初等教育で身に付ける学力がなく継続困難。
- 2.親への依存性が高く将来目標がない。
 - ①親との身近な幸せが大切と将来を見ていない。
 - ②同調圧から空気を読みすぎ自分がない。
 - ③人づきあいが苦手で悲観的でネガティブ思考。
 - ④SNSの影響で他人の目を気にし目立ちを嫌う。

(指導者側の問題点)

- 1.専門基礎分野を担当する臨床医学系の医師確保が難しく学生と指導者間、学校のニーズにズレが生じる。
- 2.54～59歳あたりの年齢層の教員が欠如している。
- 3.管理教員になる前に離職するケースが多い。
- 4.相談的な見方、感じ方、技法、態度等のカウンセリング・マインドを専任教員に育成することが難しい。
- 5.業務勤務時間内で授業以外の業務が終わらず、授業の準備や教材研究を自宅に持ち帰って行うことが多いがプロ意識が低く下準備をしっかりとしない。

④ 企業委員様からの具体的提案やご意見 (会議にてお伺いしたいと考えております。)

・社会人基礎力の低い学生が増えてきている現状において、教員の指導力は学習面だけでなく、生活面にも求めてられており、教員の負担感は増していると推測する。経営上可能な範囲で専任教員の増員を計画的に進めて頂きたい。・4年制で他校より時間的余裕があり多岐にわたるプログラムが実施されているのは素晴らしい。・最近ではインバウンド効果で海外の方も来院されることがあり、外国人に対応できる基礎的な語学力があれば幅が広がると思う。・教育目標について忠実に教育内容に反映されていると思う。特に職業倫理については職能団体である事の強みが活かされていると感じる。一方学生の問題点について指導者の更なる質向上が求められる。・基礎学力が低い学生に対して、高いレベルの教育プログラムを指導することは大変苦労があると思うが、本校は柔整業界には絶対に必要な養成校だと思っているので教員の方には頑張ってもらいたい。